

○高温による被害と産地毎の取組事例

都道府県	露地・施設	原因	症状	対策	普及状況	指導体制	問合せ先
岩手県	施設	・発芽期～生育初期の高温 ・生育期間中の高温 (7月～9月頃)	・枯死 ・萎凋病 ・生育停滞	・遮光資材の利用 ・高温性病害に強い品種の選定 ・ミスト加湿により生育停滞を抑制	・県では、被害防止に向け、指導者を対象とした技術対策会議の開催や農業者を対象とした農作物技術情報の発行し、対策技術を広く周知 ・各JAは各地域の指導会や個別巡回等による指導により生産者へ普及	・各JAと普及センターが連携し、高温対策の実証試験等を実施し、各品目の生産部会等で情報共有	岩手県農林水産部 農産園芸課 TEL:019-629-5709
宮城県	施設	8月～9月の高温	・発芽不良、生育停滞	・播種、定植の時期を遅らせる ・品目転換(ほうれんそう→こまつな)	・県で技術対策情報の通知、HP掲載	県で高温対策に向けた試験等を実施している。	宮城県農政部 園芸推進課 TEL:022-211-2843
栃木県	施設	発芽期の高温(7月上旬～8月下旬)	発芽不良	遮光ネットの展張	令和6年度に産地生産基盤パワーアップ事業を活用し、一部の生産者で遮光ネットを展張したところ、発芽率が大幅に改善	展張による効果は普及員が現地試験により確認	栃木県農政部 生産振興課 TEL:028-623-2328
兵庫県	施設	栽培期間の高温(6月～9月)	・発芽の不揃い ・立ち枯れ ・葉焼け	・遮熱資材の導入	・立ち枯れや葉焼けを防止でき、高温期における収量が遮熱資材未導入区と比べ2～4割程度増加。	補助事業で支援	兵庫県農林水産部 農産園芸課 TEL:078-362-4013
奈良県	施設	7月～10月の高温少雨	・チップバーン ・萎凋病の発生 ・チョウ目(ハスモンヨトウ、オオタバコガ等)の食害	・遮熱性被覆フィルムや遮熱性遮光資材の活用 ・播種時期を後ろ倒し ・病害虫発生予察情報に基づく適期防除	・遮熱性資材は一部で試行的に導入開始 ・県・JAで連携して夏季高温対策・適期防除に関する栽培指導や研修会を実施、栽培指導通知を発出	R7年度より県農林振興事務所とJAが連携して現地実証を実施	奈良県食農部 農業水産振興課 TEL:0742-27-7443
和歌山県	施設	播種時期、生育初期(7～9月)、収穫時期(8～10月)の高温	・発芽不良、虫害の増加、葉の傷み(とろけ)	・遮光、遮熱ネットの被覆 ・通路への散水		JAおよび各振興局の現地巡回による営農指導	和歌山県農林水産部 農業生産局果樹園芸課 TEL:073-441-2904
広島県	施設	高温・強日射(7～10月)	・生育停滞・減収	・建設足場菅を利用した換気の良い高軒高ハウスの現場実装支援 ・換気、遮光、細霧冷房の組み合わせによる施設内の昇温抑制技術の開発と現場実装 ・土壌水分適正化(土壌水分連動灌水)の開発と現場実装	・施設内の昇温抑制効果確認 ・高温による悪影響をを回避し目標収量を確保		広島県農林水産局 農業生産課 (担当:園芸振興グループ) TEL:082-513-3591